ロータリーの歴史から学ぶ

２．職業奉仕の森

１）職業奉仕は難しい？

●現在の「職業奉仕」の公式定義

職業奉仕の歴史を概観していく前に、先ず現在の「職業奉仕」の定義を明確にしておきたいと思います。それは、下記の標準ロータリークラブ定款「第６条の２」(2016年）です。但し、人によっては、「そんなものは、真の職業奉仕ではない」と主張する方もいます。それだけに職業奉仕は難しいと言われてしまうのですが、それが現在の公式定義であることには間違いありません。つまり、ロータリークラブやロータリアンは、「標準ロータリークラブ定款」は受け入れざるを得ないのです。受け入れられないのなら、ロータリアンを辞めなければなりません。もちろん、標準ロータリークラブ定款を規定審議会で変更することは可能です。しかし、少なくともそれまでは尊重遵守しなくてはならないということです。

＜2016 年　標準ロータリークラブ定款（Standard Rotary Club Constitution）＞

第６条　五大奉仕部門

２．奉仕の第二部門である職業奉仕は、事業および専門職務の道徳的水準を高め、品位ある業務はすべて尊重されるべきであるという認識を深め、あらゆる職業に携わる中で奉仕の理念を実践していくという目的を持つものである。会員の役割には、ロータリーの理念に従って自分自身を律し、事業を行うこと、そして自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てるために、クラブが開発したプロジェクトに応えることが含まれる。

●ロータリーとは？

さて、2017～18 年度のＲＩ会長イアン・ライズリー氏は、「ロータリーとは？」を自らの心に問いかけるようにという要望を、世界中のロータリアンに出しました。そして、それに対する回答を「ロータリーは、何をしているか」で考えて欲しいと述べたのです。それは、自らのロータリー観を省みることによって、明日からのロータリアンとしての活動を意義あるものにして欲しいという想いからでしょう。

では、「ロータリーとは？」、そして「ロータリーは、何をしているか？」を考えてみましょう。もちろん、100 人いれば 100 通りの回答があるでしょう。それでも、多少は表現が異なるかも知れませんが、ロータリアンなら誰もが共感してくれる回答は、右記のようなものではないでしょうか。

＜ロータリーとは？＞

ロータリーとは

①ロータリアン同士の友情を基盤に

②価値ある奉仕をしている

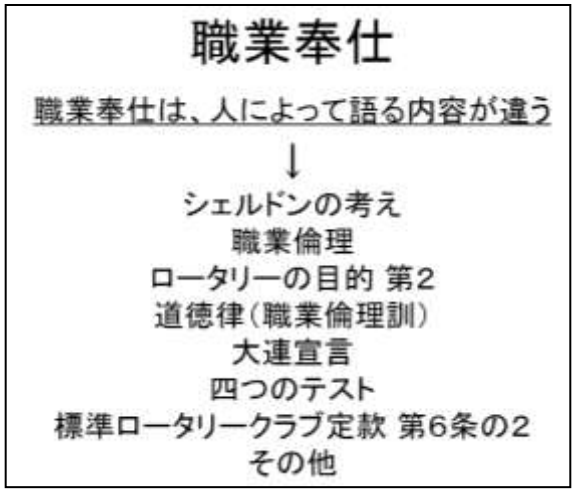
③立派なロータリアンを育てている

世界的な団体である。

●「価値ある奉仕」の根幹は、職業奉仕である

我々ロータリアンは、一日の活動時間の大部分は「仕事」に従事しています。もちろん「仕事」は、職業奉仕そのものです。すなわち、自己の職業を通じて社会に奉仕（貢献）する「職業奉仕」の時間が我々の生活の大部分であり、しかも、それで家族や職員、関連業者なども含めて生活の糧を得ているのです。もちろん、ロータリアンである以上、充実した職業奉仕をしなければなりません。実際、職業奉仕が充実していなければ、利益どころか事業の継続さえ困難となります。そうなれば、職業奉仕以外の「価値ある奉仕」に携わることさえ困難です。したがって、ロータリアンにとって職業奉仕は、最も重要な「価値ある奉仕」と言ってよいでしょう。

●職業奉仕は難しい？



それなのに、「職業奉仕は難しい」という言葉をよく耳にします。なぜでしょう？　理由は色々あるとは思いますが、大きな理由の一つは、ロータリー通の大先輩達による職業奉仕の説明が、人によって異なるからではないでしょうか？　ある大先輩は、職業奉仕は「シェルドンの考えそのものだ」と言います。また、「職業倫理そのものだ」と言う人、「ロータリーの目的（綱領）の第２が全てだ」と言う人もいます。さらには、「道徳律（職業倫理訓）」や「大連宣言」を説く人、「四つのテスト」を説く人もいます。それでも、現在の公式定義は「標準ロータリークラブ定款 第６条の２（2016 年）」なのです。これでは、聞いている方が混乱するのも当然です。これらに共通する特徴は、「職業奉仕は一本の大木」であるかのような説明でしょう。

（なお、四つのテストは、1943 年に国際ロータリー理事会が「職業奉仕プログラムの一つの構成要素とする（The R.I. Board in January 1943 made The Four-Way Test a component of the Vocational Service program.）」と決めたものであり、あくまで職業奉仕の良いプログラムの１つに過ぎません。）

●職業奉仕は、森である

私は、ロータリーの歴史をそれなりに広く深く学んできて、「職業奉仕は一本の大木ではない」と思うようになりました。むしろ、「職業奉仕は森である」と考えています。森は、高い所、低い所、陽のあたる所、陽があたりにくい所など、各々の場所で生えている木々は違いますし、また互いに影響し合って生えています。しかし、それら全体で森なのです。ですから、例えば高い所に生えている木だけを説明しても、その森の全てを語ったことにはなりません。

それと同じように、「職業奉仕に対する考え方は、歴史上、間違いなく幾つもある。すなわち、職業奉仕という森には、異なる様々な木々が生い茂っていて、また互いに影響し合って育っている。したがって、それらの木々全部を対象にして、はじめて職業奉仕を理解できる」と、私は思うのです。

●職業奉仕の歴史

職業奉仕の森について語る前に、ロータリーにおける職業奉仕の歴史について概観しておきましょう。右の表は、ロータリーの職業奉仕を理解する上で、重要な項目を挙げたつもりです。これから職業奉仕を学ぶ人には、ぜひ参考にしていただければと思います。

職業奉仕を考える上で留意して欲しいのは、誰もが「道徳律（職業倫理君）」や「決議 23－34」などの大きなトピックに目がいきますが、実は①1910 年から 1912 年に起きたこと、②1927 年の出来事、そして③1987 年以降から最近までの流れが重要だということです。

職業奉仕の歴史

1905年	シカゴロータリークラブ創立
1908年	Arthur F Sheldon入会
1910年	全米ロータリークラブ連合会（NARC）設立
1911年	「ロータリー宣言」
1912年	国際ロータリークラブ連合会（IARC）に改称
1915年	「道徳律（職業倫理訓）」
1916年	「A Talking Knowledge of Rotary」
1922年	国際ロータリー（RI）に改称
1923年	「決議23-34」
1927年	四大奉仕の分割（職業奉仕の呼称と定義）
1936年	大連宣言（ロータリー宣言）
1987年	「職業奉仕に関する声明」
1989年	「ロータリアンの職業宣言」
2007年	標準ロータリークラブ定款「四大奉仕」を明記
2010年	標準ロータリークラブ定款「五大奉仕」を明記
2011年	「ロータリーの行動規範」
2014年	「ロータリーの行動規範」改定 「ロータリアンの行動規範」（上記の再改定）
2016年	標準ロータリークラブ定款「五大奉仕」改訂

●「職業奉仕の森」の概要

さて、それでは本題です。「職業奉仕の森」にはどのような木々が生い茂っているのでしょう？　私は図に示したように、職業奉仕の森は、大きく分けると６つの木々群（そのうちの３つは Arthur Frederick　Sheldon の奉仕理論）からできていると思います。そして、最初に生えてきた木々が「職業倫理」です。

次稿から、これら６つの木々群について、順を追って説明していきます。

（2014 年 5 月 1 日 初稿、2018 年 5 月 7 日 最終改訂　文責：鈴木一作）